

令和 5 年度「生徒・保護者意識調査アンケート」集計結果

専修学校クラーク高等学院大阪梅田校

1 はじめに

学校自己評価を行う上で、生徒や保護者を対象とする評価を通じて、学校運営や教育内容等に対して生徒・保護者がどのような意見や要望を持っているかを把握し、今後の取組や自己評価に活用することが重要である。

このため、本校では、在籍する全生徒及び保護者を対象に、本校の教育に対する満足度を調査するための「意識調査アンケート」を Web アンケートツール「Forms」により実施している。

なお、アンケートの実施に当たっては、匿名性の担保に配慮する観点から無記名方式としている。

2 調査及び集計結果

生徒及び保護者に対し、以下の項目について、【1：とても満足している 2：やや満足している 3：あまり満足していない 4：全く満足していない】の四者択一方式で満足度調査を実施した。

令和 5 年度「生徒・保護者意識調査アンケート」集計結果

	カテゴリー	1 年生	2 年生	3 年生
生徒	教科学習への満足度	70.6%	63.0%	64.6%
	グローバル教育への満足度	68.0%	65.4%	65.4%
	探究的な学びへの満足度	70.3%	63.6%	60.9%
	生徒支援への満足度	74.8%	66.4%	61.8%
保護者	担任の先生への満足度	100%	93.8%	92.4%
	学校行事・学校生活への満足度	89.0%	92.0%	92.0%
	前年度に比べてのお子様の成長感	78.2%	75.8%	82.0%

3 考察

(1) 生徒意識調査アンケート

- ・生徒の満足度は全体的に見て低い。特にグローバル教育に対する満足度が低く、将来英語が必要なことは理解されていると思うが、英語が苦手な生徒が多く、放課後の基礎的な学習会の実施などを含めた改善が必要である。また、2・3年生においては探究的な学びへの満足度が低い。一般受験を選択する生徒は探究学習の必要性を感じておらず、受験勉強とは別に探究学習の必要性を教員が伝え続けていかなければならない。

(2) 保護者意識調査アンケート

- ・保護者の満足度は全体的に高い。コロナ禍以前のように、保護者会の実施や公開授業の実施をしたことが要因と考える。

(3) 全体を通して

- ・令和5年度については、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが2類から5類に引き下げられたことを受けて、学校行事をはじめ様々な学習活動ができるようになった。これにより、教育活動を参観していただく機会が増えたことは保護者の安心にもつながり良いことだと思う。教科学習をはじめ生徒の満足度が低い点については早急に改善策を講じる。具体的には授業力研修を含め、様々な研修の時間を確保し、教員の指導力の向上を目指す。また、引き続きICT等を活用した教育活動の充実を図るとともに、本校が以前から注力している企業との連携や非認知能力の育成を目指した探究学習の推進、国際教育の更なる充実を目指した英語授業の推進及びコース教育の更なる充実に向けた教育環境の整備に努めていきたい。